

報恩の思い届けるご勝縁を！

年々、寒さに耐える体力が落ちてきていることを痛感し、できるだけ暖かい内に少しでもお参りを終わらせようと、今年秋参りの家庭報恩講を

十月二日から始めました。恩講は十一月一日から始まり、残り一座になりました。十月、十一月にご門徒ご往生が九件ありました。葬儀が

秋参りや恩講と日付が重なったことと多々あり、ご迷惑をおかけしたこともあります。お詫び申し上げます。さて、当山の報恩講もいよ

いよ今月十五日、十六日に執行です。多くの皆さまのご参詣をお待ち申し上げております。ご家族おそろいでお出でください。法語カレンダーをお配りしました。目につきやすい所で使用していただき、法味あふれる言葉を日々味わっていたきたいと思っております。

法語について

最近、駅のホームや電車やバスの車内などでは、本を読んでいる人は少なく、多くの人がうつむき加減でスマートフォンを触っている姿を見かけます。様々な情報をすぐに入手できる半面、どこまでが本当の情報なのだろうかとさえ疑ってしまいます。そのように多くの情報が渦巻く中、たくさんの方の文字に接している私たちですが、しかし、どれほどの人が出会った言葉を大切にしているでしょうか。私たちが、思いを満たしてくる言葉を探し続け、自ら生きざまを問う言葉に出会うことはなかなか難しいようです。

「あなたは、どんな言葉につかまれていますか」

私たちは生涯を通して、たくさんの方の言葉に出会い、多くの情報は情報の中から、多くの書籍の中から、言葉との出会いが私の中の人生に光をあて、そこにある言葉が私に迫り、励まされ喜び、時に涙する、悩まされ、考え続けることもあります。

人はひとりの人との出会いから、ひとつの言葉との出会いから生きる意味を賜うていくのではないのでしょうか。今年のカレンダーは、親鸞聖人のご著作の中から、浄土真宗の各派共にご門徒の方々がふれることのできるお言葉を掲載いたしました。ひと月にひとつの言葉を味わいながら、仏法に身を浸し、言葉につかまれる、親鸞聖人のお言葉を憶念する一年を送っていたきたいと願っています。

月	出 拠	注釈版頁
表 紙	唯信鈔文意	7 1 0
1月	尊号真像銘文	6 5 1
2月	親鸞聖人御消息	7 3 5
3月	一念多念文意	6 7 8
4月	唯信鈔文意	7 0 7
5月	入出二門偈頌	5 4 6
6月	親鸞聖人御消息	7 4 7
7月	浄土門類聚鈔	4 9 2
8月	一念多念文意	6 9 2
9月	親鸞聖人御消息	7 7 8
10月	唯信鈔文意	7 0 8
11月	尊号真像銘文	6 4 5
12月	親鸞聖人御消息	7 6 8

法語の世界

〈原文〉

おなじく仰せにいはく、心得たと思ふは心得ぬなり。心得ぬと思ふは心得たるなり。弥陀の御たすけあるべきことのたふとさよと思ふが、心得たるなり。少しも心得たると思ふことはあるまじきことなりと仰せられ候ふ。されば『口伝鈔』(四)にいはく、「さればこの機のうちへにたもつところの弥陀の仏智をつのらんよりほかは、凡夫いかでか往生の得分あるべきや」といへり。(蓮如上人御一代記聞書 二百十三)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、「ご法義をよく心得ていると思つているものは、実は何も心得ていないのである。反対に、何も心得ていないと思つているものは、よく心得ているのである。弥陀がお救いくださることを尊いことだとそのまま受け取るのが、よく心得ているということなのである。物知り顔をして、自分にご法義をよく心得ているなどと思つことが少しもあつてはならない」と仰せになりました。ですから、『口伝鈔』には、「わたしたちの上に届いている弥陀の智慧のはたらきにおまかせする以外、凡夫がどうして往生という利益を得ることができようか」と示されているのです。

二〇一七(平成二十九)年 金光寺報恩講のお知らせ

- 日時
- 十二月十五日 午前十時〜 日中法要(上下参り)
 - (九区・十三区・十四区地区) 午後七時〜 速夜法要(お番)
 - 十二月十六日 午前十時〜 日中法要(中央参り)
 - (十区・十一区・十二区地区)

講師 福岡教区 夜須組 浄覚寺副住職 浄土真宗本願寺派布教使 渡邊 崇之 師

その他 お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典(お経本)をご持参ください。 報恩講期間中の日中法要(午前十時から)の法要(午後七時から)の速夜法要にお参りください。

報恩講は、親鸞聖人のお命日を縁として、浄土真宗の門信徒が一年に一度手継ぎ寺にそろって参詣し、阿弥陀さまのみ教えに出遇わさせていただく、**浄土真宗では一番重要な法要・法座です。**是非、ご勝縁をお結びください。